

(4)中部丘陵地域

1)現状と課題

■地域の現状

- 本地域は、本市の西部に位置し、大目地区、甲東地区および大鶴地区を擁し、仲間川等の河岸段丘上に断片的に集落が分布する緑濃い森林・丘陵地となっています。
- 本地域南東部の大鶴地区大柵区が都市計画区域に指定されているのみで、地域の大部分は都市計画区域が指定されていません。
- 本地域の人口・世帯数は、平成22年（国勢調査）で3,297人、1,039世帯となっています。また、高齢化率は35%と市内でも高い地域のひとつとなっています。
- 地域を東西に中央自動車道が横断し、談合坂サービスエリアが位置しています。東西方向には、旧甲州街道に沿った（主）大月上野原線が市街地と各集落、大月市方面を結び、南北方向は（県）野田尻四方津停車場線が国道20号や巖地区を結んでいます。
- 地域内には、旧甲州街道の宿場町であった鶴川宿、野田尻宿、犬目宿があり、昔の面影を残す遺構もあります。また、桜の名所としても名高い大野貯水池、扇山を中心とした登山道やハイキングコース、溪流に点在する滝、ゴルフ場などのレクリエーション施設があります。



■地域の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a. 里山集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- b. 人口減少の歯止めと里山居住の促進
- c. 誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a. 地域間を連絡する道路網の整備
- b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺のアクセス道路の整備

③価値観の多様化への対応

- a. 景観計画の策定
- b. 耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用

④循環型社会への対応

- a. 森林・緑地の維持・保全・活用
- b. 水辺空間の維持・保全・活用
- c. 環境に配慮したまちづくりの推進

⑤ ICTと情報化社会、国際化への対応

- a. 談合坂サービスエリアを利用した情報発信
- b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺の活用
- c. 産・学・官連携の強化

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a. 安全・安心な交通環境の強化
- b. かけ崩れ等危険箇所等の解消

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a. 旧宿場町の歴史・文化を活かしたまちづくりの展開
- b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ整備に併せた地域振興
- c. 良好な自然環境のレクリエーション活用
- d. 農業・林業の再生(6次産業化)
- e. 廃校跡地の有効活用(旧大目小、旧甲東小(和見分校も含む)、旧大鶴小、旧平和中)



・里山集落地の現状(大目地区)

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a. 公共施設等の再配置・集約化
- b. 民間活力の導入



・歴史を活かしたまちづくり(野田尻宿)



・鶴川宿の現状

地域の現状と課題図（中部丘陵地域）

⑦-a.旧宿場町の歴史・文化を活かしたまちづくりの展開

- ①-a.里山集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- ①-b.人口減少の歯止めと里山居住の促進
- ①-c.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ③-a.景観計画の策定
- ③-b.耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用
- ④-a.森林・緑地の維持・保全・活用
- ④-c.環境に配慮したまちづくりの推進
- ⑤-c.産・学・官連携の強化
- ⑥-a.安全・安心な交通環境の強化
- ⑥-b.がけ崩れ等危険箇所等の解消
- ⑦-d.農業・林業の再生（6次産業化）
- ⑦-e.廃校跡地の有効活用
- ⑧-a.公共施設等の再配置・集約化
- ⑧-b.民間活力の導入

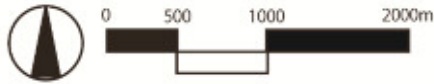


②-a.地域間を連絡する道路網の確立

- ②-b.(仮称)談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺のアクセス道路の整備
- ⑤-a.談合坂サービスエリアを利用した情報発信
- ⑤-b.(仮称)談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺の活用
- ⑦-b.(仮称)談合坂スマートインターチェンジ整備に併せた地域振興

④-b.水辺空間の維持・保全・活用
⑦-c.良好な自然環境のレクリエーション活用

- | | | |
|-----------|--------|--------|
| — 行政界 | □ 用途地域 | ■ 教育施設 |
| --- 地区界 | □ 河川等 | ● 公共施設 |
| ■ 鉄道・駅 | ■ 集落地 | 〒 郵便局 |
| — 中央自動車道 | ■ 工業団地 | ⌘ 神社 |
| — 国道 | ■ ゴルフ場 | ⌘ 社寺 |
| — 県道 | | ▲ 山地 |
| — 主要な生活道路 | | |



1)地域の将来像

■地域の将来像と目標

豊富な地域資源を活かし、活力を次世代に引き継ぐまち

◆目標

- 談合坂サービスエリアおよび（仮称）談合坂スマートインターチェンジを活かし、地域に人を呼び込むための地域資源・地域産業の展開を目指します。
- 自然環境と調和した土地利用や里山居住の推進による定住促進へ向けた取り組みを進めます。

◆重点プロジェクト

○交通環境を活かした地域活性化の推進

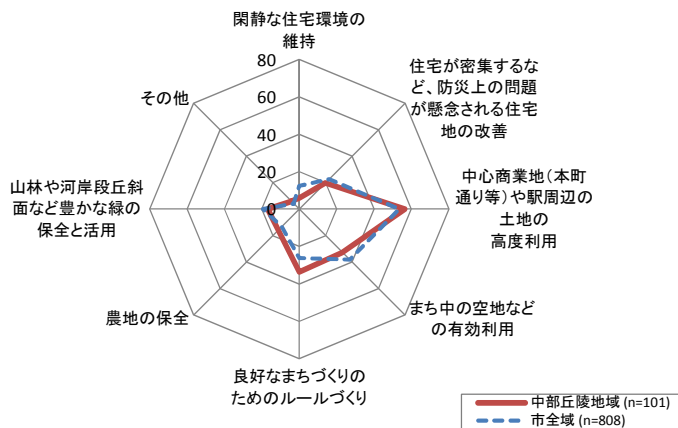
本地域は、中央自動車道や談合坂サービスエリアが位置する広域交通の要衝であり、談合坂サービスエリアには、スマートインターチェンジの整備が予定されるなど、地域に人を呼び込むためにも魅力ある新たな地域産業を展開します。

○旧甲州街道宿場町の風土の歴史を受け継ぐまちづくりの推進

本地域は、旧甲州街道の宿場町として栄えた歴史的資源が点在する地域です。こうした歴史的資源を地域の宝としてとらえ、文化活動や交流の場として積極的に活用していきます。

◆地域住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- ・スマートインターチェンジができるとともに周りが発展するために、道路や公園、その他の開発をしてもらいたいです。人口も増え、企業も増やし、上野原市が発展につながってもらいたいです。
- ・本地区には、富士山がよくみえる眺望のよい場所が多数あるため、桜やもみじを植えるなど、特色あるハイキングコースを整備してほしいです。
- ・扇山周辺の登山道等の整備を行ってほしい。本地区は、甲州街道や不動様等の歴史的な文化財も多数あるため、観光資源として活用してもらいたいです。

■土地利用の方針

談合坂サービスエリアおよび（仮称）談合坂スマートインターチェンジを活用した交流拠点の形成と自然環境と調和した土地利用を進めます

本地域は、中央自動車道や談合坂サービスエリアが位置する交通の要衝ですが、地域内は仲間川や旧甲州街道、大野貯水池周辺などに点在する里山の暮らしを営む穏やかな集落地域となっています。今後も、この落ち着いた環境を維持するとともに、かつての街道筋の歴史の面影が継承できる土地利用を進めていきます。

- 仲間川や旧甲州街道沿道、大野周辺に点在する集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 出張所、学校などの公益性の高い施設が立地する地区は、地域のコミュニティ活動の機能を担う地区拠点として整備を進めていきます。
- 談合坂サービスエリア周辺は、地域特産物の施設内販売など、農業の活性化に寄与しています。さらに、スマートインターチェンジの周辺整備と併せて観光レクリエーション拠点として交流人口の増加を図ります。
- 上野原東京西工業団地へのアクセス道路の整備を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 地域の活力を高め安心した暮らしを次世代に引き継ぐまちづくりを進めます

①立地条件を活かし新たな地域産業を展開します。

本地域は、農村集落を背景に各山岳地へ至る緑地資源、旧甲州街道・宿場町の歴史資源、中央自動車道談合坂サービスエリアや2か所のゴルフ場を擁し、地域活力の可能性を秘めた地域です。また、談合坂サービスエリアにスマートインターチェンジの整備が決定し、今後、導入による地域の利便性の向上や観光振興への活用が期待されています。当地域では人口の減少や遊休農地が増えていますが、今後は優良農地の維持・保全とともに、これらの立地条件や地域資源を活かし、新たな地域振興を進めていきます。

- ・観光産業の活性化拠点（談合坂サービスエリアにおける地場産物の販売、地域情報発信 など）
 - ・談合坂サービスエリア内の空き地の活用（情報発信の場としての有効活用 など）
 - ・中央自動車道の周辺を活用した地域振興（情報発信および中心市街地への動線確保 など）
 - ・スマートインターチェンジ整備に併せた地域振興（周辺観光拠点への案内誘導 など）
 - ・（仮称）談合坂スマートインターチェンジへのアクセス道路の整備
 - ・地場産物の生産・販売の促進（農産物直売所などを利用した販路拡大）
 - ・遊休農地の有効活用（滞在型市民農園、体験学習農園、オーナー制度、菜園団地などの検討）
 - ・農業や林業の活性化を促す6次産業化（地域ビジネスの展開と新たな業態の創出）
 - ・エコタウン構想（※1）の検討（自然エネルギーや災害時の電力活用の検討 など）
- ※1 エコタウン構想：廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進を通じた資源循環型のまちづくり

②人口定着と里山・農村居住を促進します。

本地域では地域資源の掘り起こしを行い、森林や農地と住宅を融合させたまちづくりを推進するなど、地域全体が活性化できる仕組みづくりを構築し、次世代に引き継いでいくことが重要です。

- ・里山居住の推進（住宅支援・子育て支援 など）
- ・市街地近郊のベッドタウンとして通勤や生活利便性の確保
- ・自然と融合した生活環境、親子留学の奨励（山村留学、ふるさと体験ツアー、グリーンツーリズム など）
- ・談合坂サービスエリアやインターネット等を活用した地域情報発信の充実（地域情報の収集（空き家情報など）、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）

2. 豊かな自然環境や風土の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを進めます

①豊かな自然環境を維持・保全・活用します

地域を東西に流れる仲間川や大野貯水池などは、潤いある水辺を象徴する貴重な資源でもあります。また、山地へ至る森林は、林業生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能も併せ持っています。これら骨格的な環境・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代へ引き継いでいくことが重要です。

- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地域の維持・保全・活用（保水（水源かん養）、荒廃した森林の再生と活用）
- ・生態系の維持・保全と農業を支援するための鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②地域の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを推進します

本市は、かつては本陣がおかれ甲州街道の宿場町として栄え、250軒ほどの商家も立ち並んでいたとされています。街道の記憶はそこに住む人々の暮らしぶりや、歩く都度に変化する美しい自然を多くの旅人に伝えてきました。中部丘陵地域の旧街道の道すじには、今もその面影を残す地名やまちなみ、かつての情感を誘う自然や眺望などが残されています。この地域の歴史を埋もれさすことのないよう、甲州街道の歴史を探訪する道すじ・景観づくりを進めていきます。

- ・旧甲州街道の歴史のみちづくり（犬目宿、野田尻宿、鶴川宿、石畳、特色ある緑化など街道のまちなみ形成、案内板の整備、舗装・街灯整備、サイン・休憩スポット、まちかど広場の整備 など）
- ・ビューポイントの整備（富嶽三十六景「犬目峠の富士」の眺望などの既存ポイントの修景整備や景観デッキの設置による新たなポイント整備 など）

③集い楽しむ交流レクリエーション活動を進めます

本地域は、各集落の背景に広がる森林の緑豊かな環境や、春の訪れが水面の桜から始まるといわれる大野貯水池などの良好な地域資源を有しています。これら地域資源を活かし、旧甲州街道の歴史のみちづくりと併せ、各資源が有機的に結びあうことで魅力を高め、多くの人々がレクリエーション活動などを通して地域の豊かな自然や文化と触れ合う、新たな交流と活動が生まれる場を創造していきます。

- ・湖畔レクリエーション公園の整備（大野貯水池周辺：花見の名所、渡り鳥飛来の環境整備、散策路・遊歩道、公園施設整備、市民主体による維持・管理の推進 など）
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間・トイレ

整備、マップづくり など)

- ・自然観察路等の整備（バードウォッチング、フィッシング、キャンプ場、眺望点などの溜まりの広場の整備（林道、登山道等））

3. 地域を結ぶ道路の機能強化と、安全・安心な交通環境づくりを進めます

①地域を結ぶ道路網を確立します

本地域は、複雑な地形構造から災害時における道路寸断などの集落の孤立化が懸念されています。したがって、各地域との連携・交流を強化するため、地域内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

- ・地域間を連絡する道路網の整備促進（狭あい区間の解消、がけ崩れ等危険個所の解消（（主）大月上野原線、（県）野田尻四方津停車場線））
- ・アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルートの確保（中部丘陵地域～巖地区））
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

②交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

道路は、生活や経済活動に不可欠な基本的な社会資本であり、暮らしに最も密着した公共施設といえます。その道路が危険であったり、通行に不便を抱えるようであれば、暮らしは不満の多いゆとりのないものになってしまいます。特に、幹線道路と重複する通学路の改善や、信号機・横断歩道の整備など、交通環境を改善し、安全で快適に利用できる誰にもやさしいみちづくりを進めていきます。

- ・通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制 など）
- ・信号機・横断歩道の整備促進
- ・道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 里山の暮らしの豊かさを誰もが感じる住環境づくりを進めます

①地域で暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

- ・廃校跡地の有効活用
- ・農業や林業の活性化を促す 6次産業化（地域ビジネスの展開と新たな業態の創出）

②安心な暮らしを営む住環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

- ・補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

水資源の開発・確保に努め簡易水道の統合など給水施設の整備を進めます。また、地域の状況を踏まえ合併浄化槽を中心とした生活排水処理方式を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルにより自然にやさしいまちづくりを推進します。

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進



• ビューポイントの整備（大目地区）



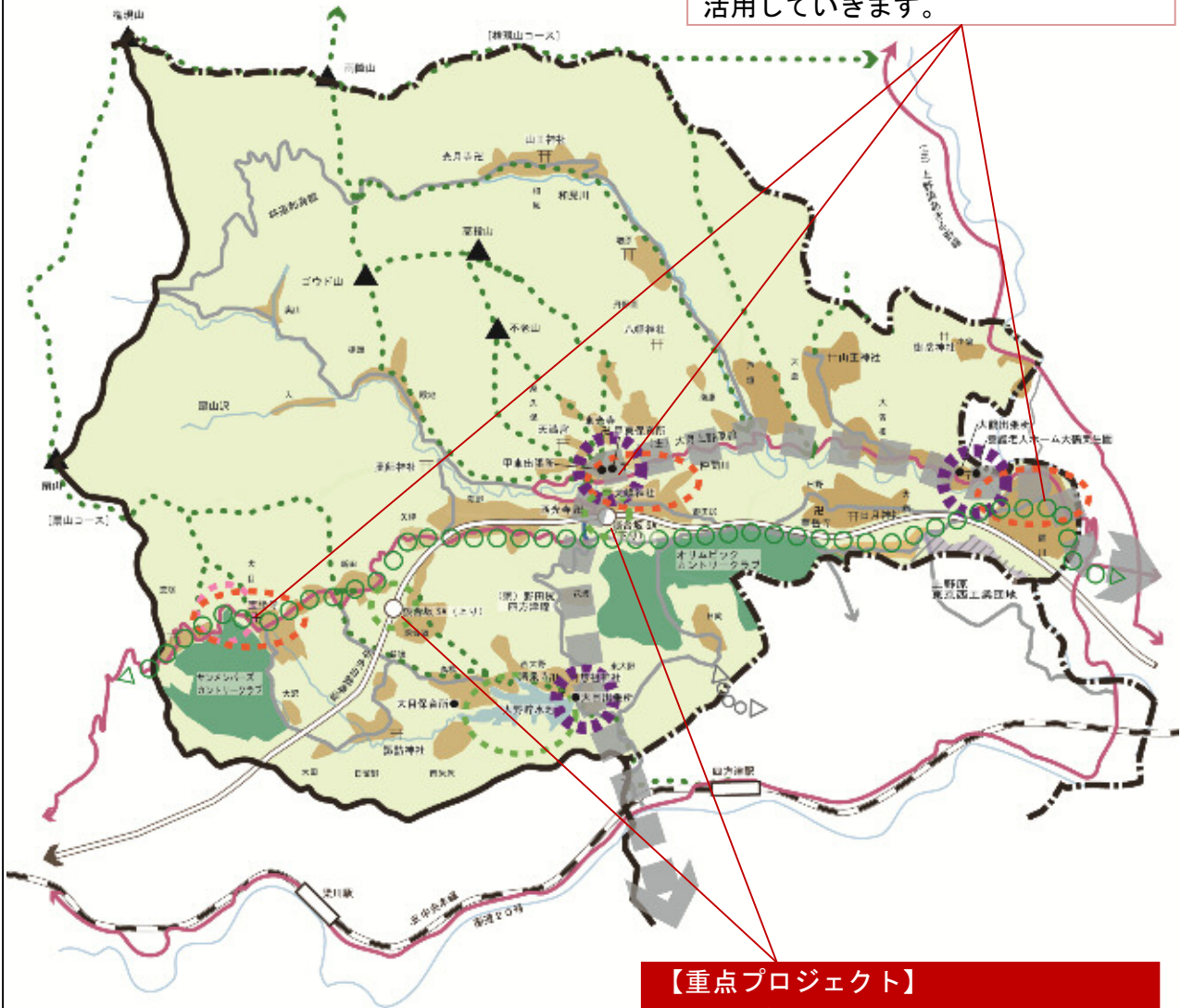
• 談合坂SAやさい村

◆まちづくり方針図（中部丘陵地域）

【重点プロジェクト】

旧甲州街道宿場町の風土の歴史を受け継ぐまちづくりの推進

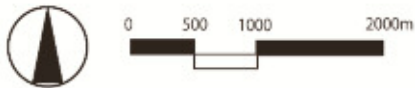
歴史的資源を地域の宝としてとらえ、文化活動や交流の場として積極的に活用していきます。



【重点プロジェクト】

交通環境を活かした地域活性化の推進

地域に人を呼び込むためにも魅力ある新たな地域産業を展開します。



<p>— 行政界</p> <p>- - - 地区界</p>	<p><道路・交通></p> <p>— 中央自動車道</p> <p>— 幹線道路</p> <p>○ ○ 補助幹線道路 (構想路線)</p> <p>■ ■ ■ 地域間連絡道路等</p> <p>○ ○ ○ 旧甲州街道</p>	<p><土地利用></p> <p>■ ■ ■ 集落</p> <p>■ ■ ■ 工業団地</p> <p>■ ■ ■ 森林</p> <p>■ ■ ■ ゴルフ場</p> <p>● ● ● 地区拠点</p> <p>● ● ● 観光レクリエーション拠点・緑の拠点</p> <p>● ● ● 眺望拠点</p>	<p><その他></p> <p>■ ■ ■ 水辺空間の保全と治水安全性の向上</p> <p>○ ○ ○ 旧宿場町</p> <p>/// 公共下水道全体区域</p> <p>● ● ● 登山道・ハイキングコース</p>	<p>■ ■ ■ 教育施設</p> <p>● ● ● 公共施設</p> <p>〒 郵便局</p> <p>〒 神社</p> <p>記 社寺</p> <p>▲ 山地</p>
-------------------------------	--	--	---	--

(5)鶴川流域地域

1)現況と課題

■地域の特性

○本地域は、本市の北部に位置し、地域の中心を流れる鶴川に沿った細長い河岸段丘の集落地と、緑濃く山深い森林地域となっています。

○本地域には、都市計画区域が指定されていません。

○本地域の人口・世帯数は、平成22年（国勢調査）で1,935人、745世帯となっており、本市の総人口に占める割合は約7.7%と最も低く、人口・世帯数ともに減少傾向にあります。地域における高齢者率は39%と市内で最も高齢化が進行しています。

○幹線道路網は、南北方向に（主）上野原あきる野線が中心市街地と檜原村方面を結んでおり、この他東西方向に（主）上野原丹波山線や（県）桐原藤野線が各集落を結んでいます。

○桐原地区は長寿の里として全国的に名前が知られ、西原地区は、そばの里づくりの一環として羽置の里びりゅう館が活用されるなど、郷土色豊かな里山の暮らしが地域活性化の一翼を担っています。また、神楽舞や獅子舞奉納などの伝統行事が受け継がれています。



■地域の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
(定住促進)
- b.人口減少の歯止めと山間居住の促進
- c.地域コミュニティの維持・向上
- d.医療サービスの充実
- e.誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立

③価値観の多様化への対応

- a.景観計画の策定
- b.耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用

④循環型社会への対応

- a.森林・緑地資源の維持・保全・活用
- b.水辺空間の維持・保全・活用
- c.環境に配慮したまちづくりの推進



・山間集落地の現状（桐原地区）



・地域を連絡する道路の現状（西原地区）

⑤ ICTと情報化社会、国際化への対応

- a.ふるさと長寿館・羽置の里びりゅう館を利用した情報発信

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.安全・安心な交通環境の強化
- b.がけ崩れ等危険箇所等の解消

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.山間地の特性を活かした地場産業の展開（6次産業化）、潜在資源の活用
- b.自然レクリエーション資源の有効活用（ふるさと長寿館、青少年自然の里、羽置の里びりゅう館、平野田休養村、一宮神社等の観光拠点）
- c.伝統芸能・文化の継承（軍刀利神社、獅子舞奉納祭、古在家神楽舞）
- d.廃校跡地の有効活用（旧柵原小、旧柵原中、旧西原小）

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の再配置・集約化
- b.民間活力の導入

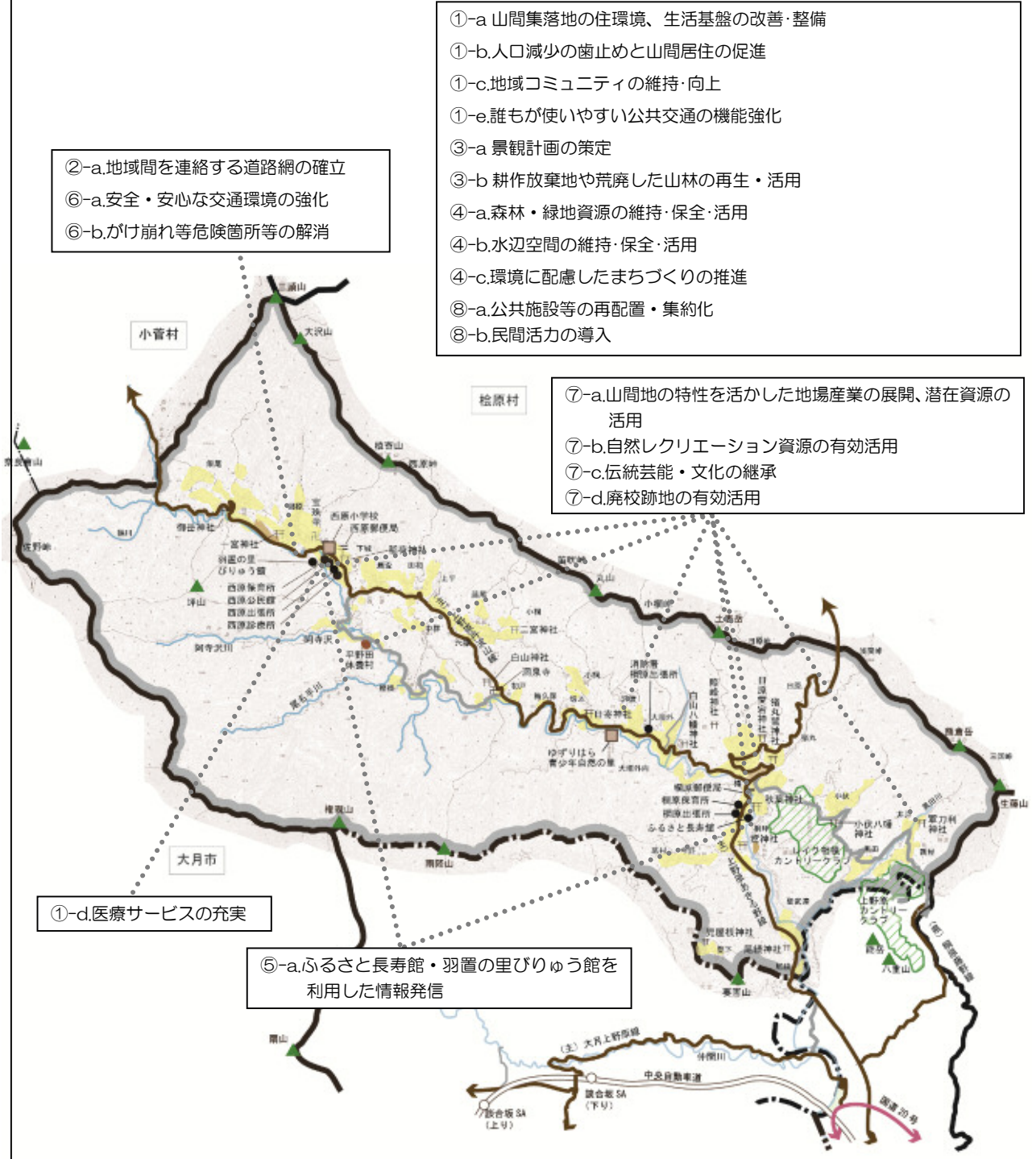


・柵原地区の拠点施設（ふるさと長寿館）



・柵原地区の獅子舞（猪丸）

◆地域の現状と課題図（鶴川流域地域）



②-a.地域間を連絡する道路網の確立
 ⑥-a.安全・安心な交通環境の強化
 ⑥-b.がけ崩れ等危険箇所等の解消

- ①-a 山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- ①-b.人口減少の歯止めと山間居住の促進
- ①-c.地域コミュニティの維持・向上
- ①-e.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ③-a 景観計画の策定
- ③-b 耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用
- ④-a.森林・緑地資源の維持・保全・活用
- ④-b.水辺空間の維持・保全・活用
- ④-c.環境に配慮したまちづくりの推進
- ⑧-a.公共施設等の再配置・集約化
- ⑧-b.民間活力の導入

- ⑦-a.山間地の特性を活かした地場産業の展開、潜在資源の活用
- ⑦-b.自然レクリエーション資源の有効活用
- ⑦-c.伝統芸能・文化の継承
- ⑦-d.廃校跡地の有効活用

①-d.医療サービスの充実

⑤-a.ふるさと長寿館・羽置の里びりゅう館を利用した情報発信

— 行政界	— 河川等	■ 教育施設
— 地区界	■ 集落地	● 公共施設
— 鉄道・駅	■ ゴルフ場	● レクリエーション施設
— 中央自動車道		〒 郵便局
— 国道		〒 神社
— 県道		〒 社寺
— 主要な生活道路		▲ 主な山地



2)将来像

■地域の将来像と目標

つながりと豊かさを育む、ずっと住み続けたいなるまち

◆目標

- 人々が集い、地域活動をつなぐ、暮らしの安心と未来への希望が持てる小さな拠点づくりを目指します。
- 自然レクリエーション資源や地域の伝統・文化を活用し多くの人との交流を育みます。
- 周辺地区との連携・交流を図るため、地域間の道路網の整備を推進します。

◆重点プロジェクト

○農地を維持・保全し、活用したまちづくり

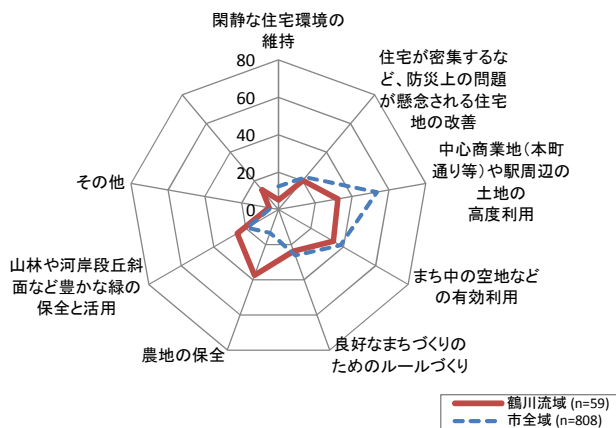
本地域は、農家数や農業就業人口が市内で最も多く、世帯の約 7.7%が農業を営んでいます。しかし、農業就業人口は年々減少傾向にあり後継者問題や険しい地形等による基盤整備の困難性もあり、農林業の衰退が進んでいます。農地の遊休化、耕作放棄を防止し、農村環境の向上を図り、農地の生産力の維持保全を推進していきます。

○豊かな緑の保全と活用

本地域は、奥深い山間地域に位置しています。この緑濃い豊かな自然環境を維持・保全し、自然のレクリエーション資源を活用した地域産業の展開を図ります。特に、近年は、自然を楽しみながら誰もが気軽にできるレクリエーションとして登山やハイキングの人気の高まっており、登山道やハイキングコースの整備等により地域資源を活用した地域活性化を図ります。

◆地域住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- 上野原の自然を守り便利なことだけを見るのではなく、今まで上野原の人々が大切にしてきた人とのつながりや伝統的なものを守っていくまちづくりを願っています。
- かけがえのない美しい自然環境のある上野原のまちを私達住民は深く理解し、大切に守っていかねばならないと思っています。少々の不便はどうということはない。それよりも自然を保護し、次世代に美しいものを残していけるようにしたいものです。
- 山間部では、自給自足(地産地消)として農産物を耕作している方が多くいます。しかし、猿やイノシシ等による作物への被害が多くなっています。新しい施設を作るより、荒れた土地の整備、使用済みの施設の再利用を考えていただきたいです。地域住民の自分たちの周りの環境に対する意識を高め、整備、保全等に取り組む姿勢を育てることが大切だと思います。

■土地利用の方針

小さな拠点づくりと農地・森林の保全・維持・活用を進めます

本地域は、奥深い山岳地の自然の懐に抱かれた穏やかな里山の暮らしを営む集落地が点在しています。医療・福祉、買い物等の日常サービス機能が集約した小さな拠点を整えるとともに、誰もが訪れ交流を重ねることのできる農山村の暮らしを主体とした土地利用の推進と居住環境の維持・向上を進めていきます。

- 鶴川の河川に沿って点在する集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 出張所、学校などの公益性の高い施設が立地する地区は、地域のコミュニティ活動の機能を担う地区拠点として整備を進めていきます。
- 地域活性化や農業・地域産業の振興に寄与するため、桐原地区のふるさと長寿館と西原地区の羽置の里びりゅう館を本地域の振興拠点として位置づけ、里山の暮らしに基づいた食文化や、地場産物の活用、地域の花弁市場の開拓など、農村集落とのふれあいを高める交流の里づくり、農村産業地区の形成を検討します。
- 集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 活性化へ向けた地域資源を活用し、住んでみたいと思えるまちづくりを進めます

①地の利を活かした産物づくりと新たな地域産業を展開します

鶴川渓谷沿いにひらけた河岸段丘に点在する農村集落は、地形や交通条件などによる産業活動への制約がある一方、温和な気候と山間特産物の収穫に恵まれた「長寿の里」としても知られています。今後は優良農地の維持・保全とともに、農地の遊休化、耕作放棄を防止し優良農地の営農環境を確保するため、これらの地域資源を活かし、「伝統食ブランド」など地場産業によるまちの活性化や、四季折々のふるさと産品展開、遊休農地の観光農業化、レクリエーション活用などを図るとともに、地の利を活かした新たな地域振興を進めていきます。

- ・地域産業の活性化拠点づくり（ふるさと長寿館、羽置の里びりゅう館：高齢者や女性など地域住民の知力と感性を活かす観光と連携した地域産業の展開）
- ・伝統的産物の生産・販売の促進と情報ネットワーク化の推進（既存施設を活用した伝統作物・地場産業のPR（ふるさと長寿館、羽置の里びりゅう館、農産物直売所、朝市 など）、ブランド産物のインターネット販売（穀物、加工品、わさび など）
- ・伝統的な食文化を継承しつつ、新たな農作物による差別化や付加価値を付けた「地域ブランド」づくりも含めた地域活性化
- ・農業や林業の活性化を促す6次産業化（暮らしの道具の再生、地場産木材利用の促進、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出 など）
- ・遊休農地の有効活用（体験学習農園、オーナー制度、菜園団地などの検討）

②人口定着と里山・山間居住を促進します

本市の抱える共通の問題の1つに、山間地域における過疎化の傾向、若い世代が地域を離れ、地域そのものが活力を失いつつあることが懸念されています。今後の山間集落の豊かな暮らしを

維持するためにも、地域に通う場の創出や、森林や農地と融合する固有の住宅づくりの推進など、地域に住むことに誇りを持ち、「住む人」、「訪れる人」の誰もが住んでみたいと思える地域づくりを進めていくことが重要です。そのため、「ふるさと長寿館」や「びりゅう館」を中心とした特産物の販売経路の確立と地域興しの拠点化を図っていきます。

- ・里山居住の推進（農と親しむ山村、空き家活用の地域の暮らしを体験するクラインガルテン：滞在型市民農園、住居支援・子育て支援 など）
- ・自然と融合した生活環境、親子留学の奨励（山村留学、ふるさと体験ツアー、グリーンツーリズム など）
- ・インターネット等を活用した地域情報発信の充実（地域情報の収集（空き家情報など）、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）
- ・山間地域における医療・福祉施設の充実

2. 自然を守り、人と人のつながりや、地域の伝統文化を守り継承するまちづくりを進めます

①豊かな自然環境を維持・保全します

地域の骨格をなす鶴川や多くの沢、湧水など、潤いある水辺は地域を象徴する貴重な資源でもあります。また、緑濃い森林は、林業生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能をも併せ持っています。これら骨格的な環境・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代へ引き継いでいくことが重要です。

- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地域の維持・保全・活用（保水（水源かん養）、荒廃した森林の再生と活用）
- ・生態系の維持・保全と農業を支援するための鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②自然レクリエーション資源を活用し多くの人との交流を育みます

素朴な自然に囲まれた当地域は、渓谷の水辺や三国峠・笛吹峠・坪山など山々へ至る登山道など多くの自然レクリエーション資源に恵まれています。都市近郊にある本地域は、自然の恩恵を十分に活用し、近隣から多くの人を呼び込む森林と河川が一体となったレクリエーション資源の活用を進めていきます。

- ・自然レクリエーション活動の充実（ゆずり原青少年自然の里（自然体験）、平野田休養村（キャンプ場）、散策路・遊歩道整備、環境学習の場づくり、自然観察会の開催、自然観察ガイドブックの作成、観光資源のPR、地場産業との連携強化 など）
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間・トイレ整備、マップづくり など）
- ・人材活用（自然保護・観察の先導役となる観光ボランティアの育成 など）

③地域の文化・伝統芸能を守り、新たな地域交流の場を創造します

本地域は、豊かな環境の中で営まれた獅子舞などの郷土芸能、軍刀利神社の祭りや御輿など年間を通した行事や、西原ふるさと祭りなどの地域一体となって作り出している祭りが数多くあります。このふるさとの祭りを慈しむように継承してきたのは、地域住民の結びつき、培われてきたコミュニティの豊かさにほかなりません。この地域の結びつきを次世代に継承するととも

に、暮らしの文化や伝統芸能等の地域資源を活用し、多くの来訪者等との交流により、更に楽しいふるさとづくりを進めていきます。

- 文化・伝統芸能の保全と継承（軍刀利神社祭典、獅子舞奉納祭、西原ふるさと祭り、古在家神楽舞などの保全・継承、新たな祭り・イベントの展開）
- 地域資源の活用と交流レクリエーションの充実（ゆずりはら青少年自然の里・ふるさと長寿館・平野田休養村・ヒロ牧場・羽置の里りびゅう館等の活用）
- 地域情報を発信する活動拠点と人づくり（地域情報の収集、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）
- 地域間コミュニティネットワークの形成、助け合い、住民同士の相互扶助関係の向上 など

3. 防災安全性を確保した道路の機能強化と安全・安心な交通環境づくりを進めます

①地域を結ぶ道路網を確立します

本地域は、複雑な地形構造から災害時における道路寸断などの集落の孤立化が懸念されています。したがって、各地域との連携・交流を強化するため、地域内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

- 地域間を連絡する道路網の整備促進（狭あい区間の解消、がけ崩れ等危険個所の解消（（主）上野原あきる野線、（主）上野原丹波山線、（県）桐原藤野線）
- アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルート確保（桐原地区～西原地区）
- 循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

②安全・安心な交通環境づくりを進めます

道路は、生活や経済活動に不可欠な基本的な社会資本であり、暮らしに最も密着した公共施設といえます。その道路が危険であったり、通行に不便を抱えるようであれば、暮らしは不満の多いゆとりのないものになってしまいます。特に、幹線道路と重複する通学路の改善や、信号機・横断歩道の整備など、交通環境を改善し、安全で快適に利用できる誰にもやさしいみちづくりを進めていきます。

- 通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制 など）
- 信号機・横断歩道の整備促進
- 道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 住んで良かったと思える楽しく暮らせる住環境づくりを進めます

①地域で暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

- 廃校跡地の有効活用

②ゆとりある楽しく暮らせる住環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

- 補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- 交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

水資源の開発・確保に努め簡易水道の統合など給水施設の整備を進めます。また、地域の状況を踏まえ合併浄化槽を中心とした生活排水処理方式を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルにより自然にやさしいまちづくりを推進します。

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進



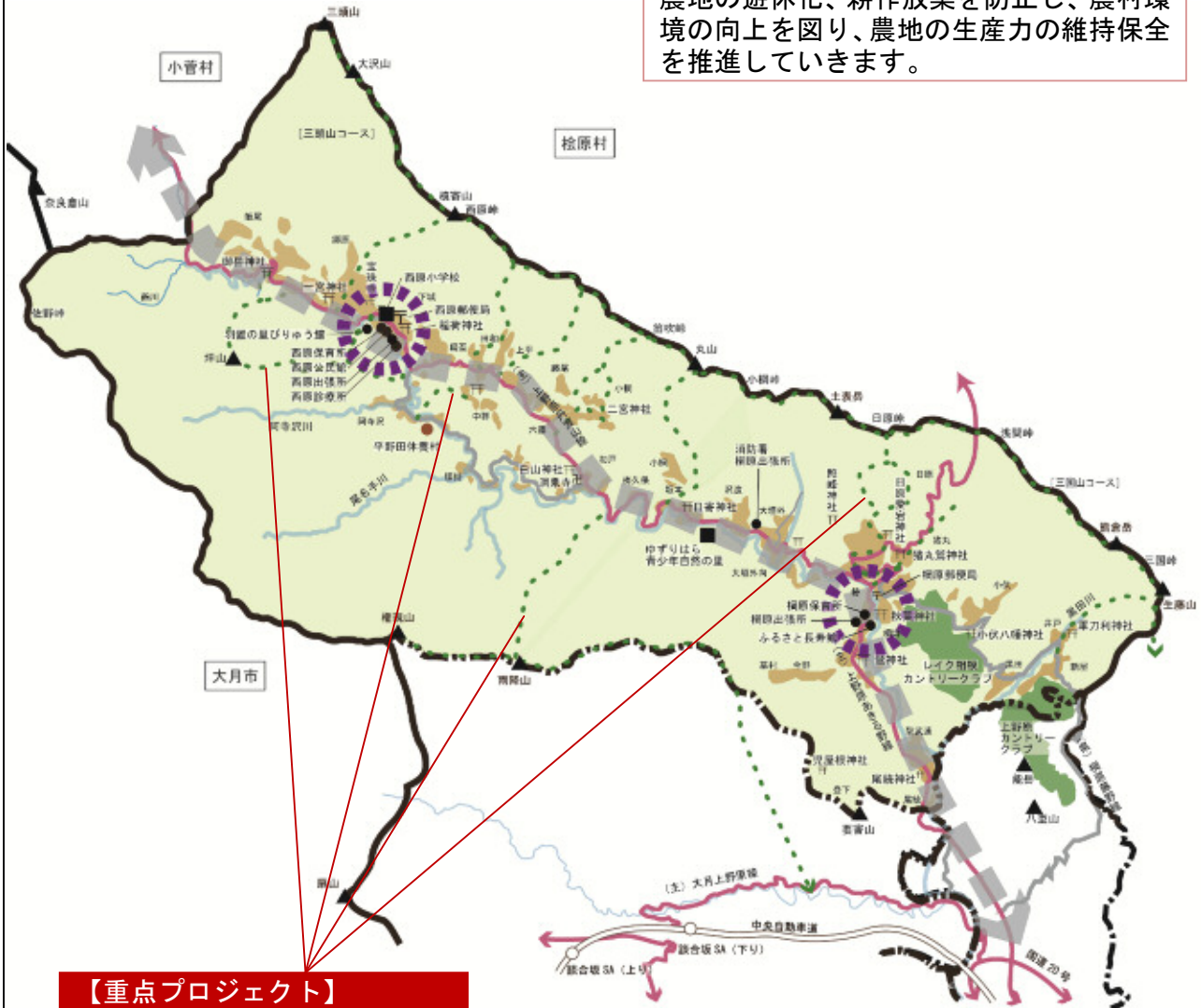
• 西原地区の拠点施設（羽置の里びりゆう館）

◆まちづくり方針図（鶴川流域地域）

【重点プロジェクト】

農地を維持・保全し、活用したまちづくり

農地の遊休化、耕作放棄を防止し、農村環境の向上を図り、農地の生産力の維持保全を推進していきます。



【重点プロジェクト】

豊かな緑の保全と活用

登山道やハイキングコースの整備等により地域資源を活用した地域活性化を図ります。



<ul style="list-style-type: none"> 行政界 地区界 	<p><道路・交通></p> <ul style="list-style-type: none"> 中央自動車道 幹線道路 補助幹線道路 地域間連絡道路 	<p><土地利用></p> <ul style="list-style-type: none"> 集落 森林 ゴルフ場 地区拠点 レクリエーション施設 	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺空間の保全と治水安全性の向上（河川） 登山道・ハイキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設 公共施設 郵便局 神社 社寺 山地
--	--	--	---	---

(6)秋山川流域地域

1)現状と課題

■地域の現状

- 本地域は、本市の南部に位置し、地域の中心を流れる秋山川に沿って、河岸段丘の集落地と、緑濃く山深い森林地域となっています。
- 本地域には、都市計画区域が指定されていません。
- 本地域の人口・世帯数は、平成 22 年（国勢調査）で 1,889 人、600 世帯となっており、本市の総人口に占める割合は約 7%と低く、人口・世帯数ともに減少傾向にあります。地域における高齢化率は 30%と、高齢化も進行しています。
- 主な幹線道路は、東西方向に（主）四日市場上野原線が通じ、各集落と中心市街地を結んでいます。
- 山や河川、溪流、温泉など、自然資源を活かし、グリーンツーリズムという形での新しい資源の掘り起こし、食文化の伝統を活かし、農産物を観光と結び付け新たなサービス産業を目指しています。



■地域の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備（定住促進）
- b.誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立（狭あい区間等の解消）

③価値観の多様化への対応

- a.景観計画の策定
- b.耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用

④循環型社会への対応

- a.森林・緑地の維持・保全・活用
- b.水辺空間の維持・保全・活用（秋山川水系）
- c.環境に配慮したまちづくりの推進

⑤ICTと情報化社会、国際化への対応

- a.新湯治場秋山温泉・秋山マス釣り場を利用した情報発信

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.安全・安心な交通環境の強化
- b.がけ崩れ等危険箇所等の解消

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.自然レクリエーション資源の有効活用
- b.山間地の特性を活かした地場産業の展開、潜在資源の活用
- c.棚田景観の活用
- d.廃校跡地の有効活用

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の再配置・集約化
- b.民間活力の導入



・秋山溪谷のマス釣り場



・富岡の棚田風景



・無生野の大念仏

◆地域の現状と課題図（秋山川流域地域）

- ①-a.山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- ①-b.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ③-a.景観計画の策定
- ③-b.耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用
- ④-a.森林・緑地の維持・保全・活用
- ④-c.環境に配慮したまちづくりの推進
- ⑥-a.安全・安心な交通環境の強化
- ⑥-b.がけ崩れ等危険箇所等の解消
- ⑧-a.公共施設等の再配置・集約化
- ⑧-b.民間活力の導入



- | | | |
|-----------|--------------|--------|
| — 行政界 | — 河川等 | ■ 教育施設 |
| — 地区界 | ■ 集落地 | ● 公共施設 |
| — 鉄道・駅 | ■ ゴルフ場 | 〒 郵便局 |
| — 国道 | ● レクリエーション施設 | ⌘ 神社 |
| — 県道 | ○ 伝統・文化 | ⌘ 社寺 |
| — 主要な生活道路 | | ▲ 山地 |



2) 将来像

■ 地域の将来像と目標

魅力ある地域社会の創造と新しい交流の展開

◆ 目標

- 豊かな自然環境を維持・保全・活用し、美しく自然あふれる農村を形成します。
- 生活環境整備を推進し、安全・安心な居住環境の確保に努めます。
- 地域の伝統や特性を大切にしつつ、上野原市としての一体感の醸成を図ります。

◆ 重点プロジェクト

○ 豊かな自然を活用した地域活性化の推進

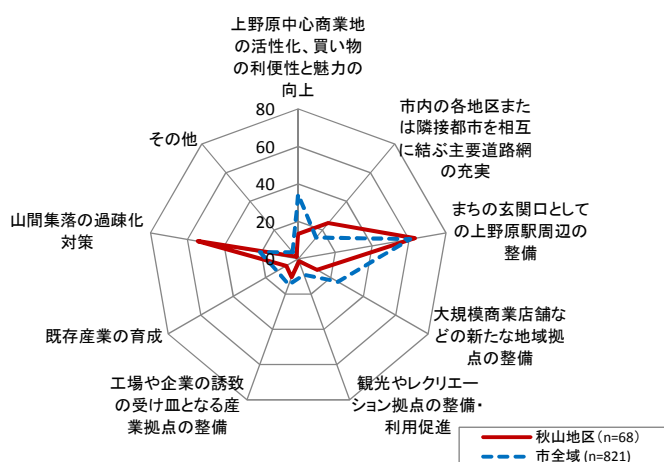
本地域には、自然を活かしたキャンプ場や、釣り場、温泉などの観光施設があります。こうした施設の充実を図り、交流の場としての積極的な活用を行います。また、各施設間のルート整備や情報提供などにより有機的に結び付け、自然の恵みを楽しむことのできる地域として活性化を図ります。

○ 山村文化を楽しめる定住化対策

豊かな自然環境と一体となった質の高い居住環境づくりを進めます。本地域は、平地が少なく傾斜地に集落が密集していることもあり、規模の大きな住宅地を確保することは難しく、集落ごとに生活基盤を整え、快適に過ごせる環境づくりを進めます。また、市民一人ひとりが、地域の自然や歴史・文化などを学び、知識や経験を活かすことのできる場を設け、自然と調和した山村集落の生活を楽しめるような環境づくりに努めます。

◆ 地域住民の意向・声

Q. 市のさらなる発展のために特に重要な取り組みについて、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- 山地にある集落を結ぶ連絡道路を整備し、災害時等にすぐ対応できるようにしてもらいたい。
- 子育て支援のために、市営のフリースクールや低所得者世帯も利用できる学習サポートクラブ、児童館があるとよいと思います。
- 温泉等の行楽施設がポツンとあって施設として魅力が乏しい。
- デマンドタクシーがもう少しわかりやすく便利に利用できるような仕組みになると助かります。
- 大都市にできない自然豊かで隣人の顔が見える小さな支えあいを大事に心豊かに生きるためには、どうしたらよいかとか、少子化に歯止めをかけるにはどうしたらよいかと知恵を出し合っていくことが喫緊の課題であると思います。

■土地利用の方針

里山の持つ豊かさを未来に引き継ぐゆとりある環境づくりを進めます

本地域は、そのほとんどが森林によって占められ、倉岳山、二十六夜山、高柄山などの山岳に囲まれ、地域の中央を秋山川が西から東へ流れ、多くの支流とともに溪流をつくり、豊かな自然環境を育んでいます。集落は、秋山川に沿って点在していますが、四方は山岳に覆われた急斜面に位置しているため、住宅地等の新たな開発地については、自然環境の保全に十分に留意し、山村景観が損なわれることのないよう配慮した魅力ある地域づくりを進めます。

- 秋山川に沿って点在する集落地は、集落・農業ゾーンとして、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 出張所、学校などの公益性の高い施設が立地する地区は、地域のコミュニティ活動の機能を担う地区拠点として整備を進めていきます。
- 地域活性化や農業・地域産業の振興に寄与するため、富岡地区の棚田や温泉、釣り場やキャンプ場を秋山流域地域振興拠点として位置づけ、心と体の安らぎの空間の創出、里山の暮らしに基づいた食文化や、地場産物の活用など、農村集落とのふれあいを高める交流の里づくり、農村産産地区の形成を検討します。
- 集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 地域の活力を高め安心した暮らしを次世代に引き継ぐまちづくりを進めます

①立地条件を活かし新たな地域産業を展開します

秋山川流域地域は、倉岳山、二十六夜山、高柄山などの山岳に囲まれ、農村集落を背景に各山岳地へ至る緑地資源や、キャンプ場、秋山温泉など山村資源が立地する、自然豊かな地域活力の可能性を秘めた地域です。当地域では近年は人口の減少や遊休農地が増えていますが、今後は優良農地の維持・保全とともに、これらの立地条件や地域資源を活かし、営農環境の確保や遊休農地の観光農業化、レクリエーション活用の推進など、新たな地域産業の振興を進めていきます。

- ・インターネット等を活用した地域情報発信の充実（地域情報の収集（空き家情報など）、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）

②人口定着と里山・農村居住を促進します

本市の抱える共通の問題の1つに、山間地域における過疎化の傾向、若い世代が地域を離れ、地域そのものが活力を失いつつあることが懸念されています。今後の山間集落の豊かな暮らしを維持するためにも、市民が集まれる地区拠点の創出や、森林や農地と融合する固有の住宅づくりの推進など、地域に住むことに誇りを生み出し、住む人、訪れる人誰もが住んでみたいと思える地域づくりを進めていくことが重要です。

- ・宅地分譲や生活環境整備などの人口定住化対策
- ・ごみ処理施設等の生活環境施設の整備
- ・里山居住の推進（農と親しむ山村、空き家活用の地域の暮らしを体験するファームステイ、住居支援・子育て支援 など）

- ・環境と調和した民間住宅開発の誘致（優良田園住宅地、農村型住宅地、林間別荘地 など）
- ・自然と融合した生活環境、親子留学の奨励（山村留学、ふるさと体験ツアー、グリーンツーリズム など）

2. 豊かな自然環境や風土の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを進めます

①豊かな自然環境を維持・保全します

地域の骨格をなす秋山川や多くの沢、湧水など、潤いある水辺は地域を象徴する貴重な資源でもあります。また、緑濃い森林は、林業の生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能も併せ持っています。これら骨格的な環境・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代へ引き継いでいくことが重要です。

- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・自然な清流の再生（地域資源を活用した河川浄化の推進（炭・竹炭 など））
- ・森林地域の維持・保全・活用（保全林をはじめ保水（水源かん養）、景観上重要な森林地域：森林粗放化の防止と資源維持、森林資源の有効活用）
- ・生態系の維持・保全と山間農業を維持するための環境維持、鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②風土の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを推進します

本地域には、鎌倉街道の裏街道が通っていたこともあり、地域には貴重な文化遺産や歴史的行事が受け継がれています。各集落に伝承されている祭りは、地域の暮らしに深く根ざし、ふるさとの原風景ともいえる地域の文化、風景を形成しています。これらを基に、個性あるまちづくりを進めていきます。

- ・自然や環境への負荷の少ないライフスタイルの確立。自然を楽しみ学べる環境や仕組みづくり
- ・浅間神社祭典、無生野の大念仏（国無形文化財）の伝承
- ・人材活用（自然保護・観察の先導役となる地域ボランティアの育成 など）

③集い楽しむ交流レクリエーション活動を進めます

本地域は、各集落の背景に広がる緑豊かな環境を有しており、キャンプ場や秋山川のマス釣り場などの良好な地域資源に恵まれています。これら地域資源を活かし、各資源が有機的に結びあい魅力を高め、多くの人々がレクリエーション活動などを通して地域の豊かな自然や文化と触れ合う、新たな交流と活動が生まれる場を創造していきます。

- ・温泉利用ニーズに対応した施設活用
- ・神野ふれあい農園、キャンプ場（アオゲラの森キャンプ場、さがさわキャンプ場、緑と太陽の丘キャンプ場）、秋山マス釣り場、秋山川の溪流釣り、秋山温泉等の観光拠点、旧浜沢小周辺、旧桜井小周辺）
- ・山村資源を活かす環境整備・事業化
- ・ビューポイント整備
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間・トイレ整備、マップづくり など）

- ・自然観察路等の整備（バードウォッチング、フィッシング、キャンプ場、眺望点などの溜まりの広場の整備（林道、登山道 など）

3. 地域を結ぶ道路の機能強化と、安全・安心な交通環境づくりを進めます

①地域を結ぶ道路網を確立します

周辺地域や各集落との連携・交流を強化するため、地域内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。特に、各地域の集落は、複雑な地形構造から災害時における道路寸断などの集落の孤立化が懸念されています。そこで、利便性の高い生活道路や緊急時の迅速なる行動体制が確保できるよう、幹線道路の改良により防災安全性向上に努めていきます。

- ・地域間を連絡する道路の改善・機能強化の推進（（主）四日市場上野原線の改良・整備、狭あい区間の解消、落石などの危険個所の改善）
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実（路線確保、自由乗降区間の充実）、山間集落地域への交通手段強化）

②交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

道路は、生活や経済活動に不可欠な基本的な社会資本であり、暮らしに最も密着した公共施設といえます。その道路が危険であったり、通行に不便を抱えるようであれば、暮らしは不満の多いゆとりのないものになってしまいます。特に、補助幹線道路と重複する通学路の改善や、信号機・横断歩道の整備など、交通環境を改善し、安全で快適に利用できる誰にもやさしいみちづくりを進めていきます。

- ・通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制 など）
- ・信号機・横断歩道の整備促進
- ・道路環境の美化（幹線道路沿道の枝打ち伐採・枯れ木の撤去などの定期的な維持・管理、不法投棄・ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進など）

4. 多様な交流と新たな活力を生み出し住み良さを実感する住環境づくりを進めます

①地域での暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

- ・廃校跡地の有効活用

②生活基盤の改善・整備と暮らしやすい環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

- ・補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

水資源の開発・確保に努め簡易水道の統合など給水施設の整備を進めます。また、地域の状況を踏まえ合併浄化槽を中心とした生活排水処理方式を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルにより自然にやさしいまちづくりを推進します。

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進



• 神野ふれあい農園



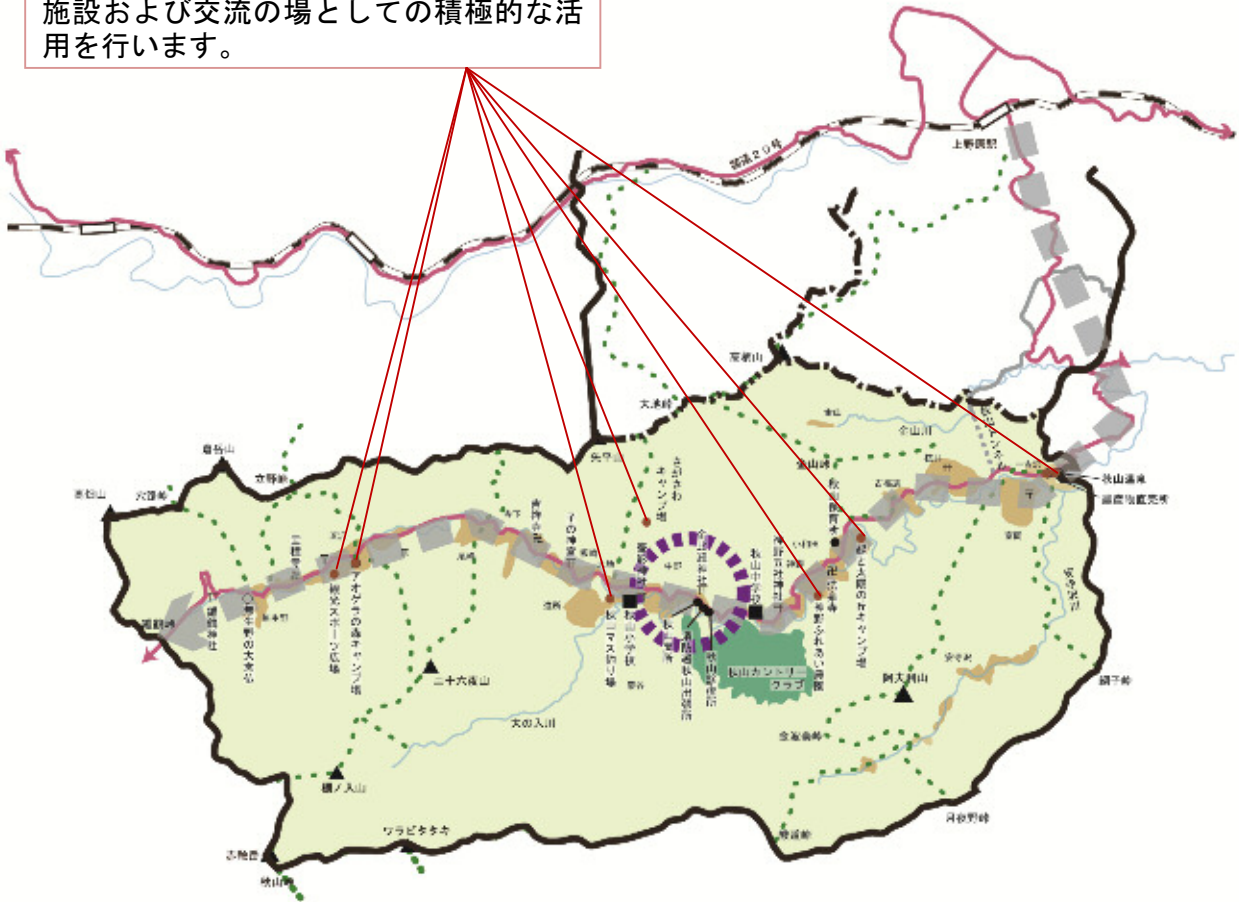
• 観光拠点（秋山温泉）

◆まちづくり方針図（秋山川流域地域）

【重点プロジェクト】

豊かな自然を活用した地域活性化の推進

自然を活かしたキャンプ場や、釣り場、温泉などの観光施設の充実を図り、環境施設および交流の場としての積極的な活用を行います。



【重点プロジェクト】

山村文化を楽しめる定住化対策

集落ごとに生活基盤を整え、快適に過ごせる環境づくりを進めます。



<道路・交通>		<土地利用>		<その他>	
—	行政界	■	集落	////	公共下水道全体区域
—	地区界	■	森林	●	登山道・ハイキングコース
—	幹線道路	■	ゴルフ場	○	レクリエーション施設
—	補助幹線道路	●	地区拠点	○	伝統・文化
■	地域間連絡道路	○		■	教育施設
				●	公共施設
				〒	郵便局
				〒	神社
				卍	社寺
				▲	山地

5-4 地域を横断する課題への対応

地域・地区に共通するまたは横断する課題があります。こうした課題に対して、各地域・地区の対応と合わせ、各地域・地区が一体となる連携軸を構築することが重要です。

① 人々の交流を促進する地域連携軸の形成

- ・ 地域間を結び、人々の交流を促進する道路軸
- ・ 〔軸〕 幹線道路・補助幹線道路 + 〔点〕 中心市街地、各地域

地域間を連絡する幹線道路や補助幹線道路は、地域住民の生活を支え、円滑な交通を実現する重要な道路です。しかし、本市の幹線道路や補助幹線道路の一部区間では、慢性的な渋滞が生じる箇所、狭あいな箇所、落石等の危険箇所が多くあります。また、地域の骨格をなす道路は、交通の利便性を向上させるだけでなく、緊急時の物資の輸送路、災害時の延焼遮断帯、火災時の消火活動の拠点としての防災性向上の役割を担っています。安心できる暮らしを支える市街地と地域集落との交流を促進する道路網の形成を進めます。

<対応策例>

- ・ 幹線・補助幹線道路網の強化
- ・ 狭あい区間解消
- ・ 交差点改良、歩道設置による安全性の向上
- ・ 緊急輸送路の確保
- ・ 循環型公共交通の利便性向上

② 高速道路軸の形成

- ・ (仮称) 談合坂スマートインターチェンジから市内への流入を促進し地域資源を結ぶ動線
- ・ 〔軸〕 中央自動車道 + 〔点〕 地域資源・談合坂スマートインターチェンジ・上野原インターチェンジ

談合坂サービスエリアにはスマートインターチェンジの整備が予定されています。スマートインターチェンジは、新たな市の玄関口として市内へ流入する車の増加を促し、市内の観光スポットや施設等の地域資源への立ち寄り機会の創出が期待されます。スマートインターチェンジから市内へ流入させる仕組みづくり、来訪者を受け入れる施設の整備、施設を周遊できるネットワークの整備を進めます。

<対応策例>

- ・ 中央自動車道利用者を誘引できる魅力的な景観づくり
- ・ (仮) 談合坂スマートインターチェンジ・上野原インターチェンジ間の道路整備
- ・ 観光スポットの充実
- ・ 地域資源間の沿道の景観整備、周辺観光スポットへのサイン設置
- ・ 地域資源に関する情報発信

③歴史のみち軸の形成

- 歴史的資源を生かす旧甲州街道軸
- 〔軸〕旧甲州街道＋〔点〕旧宿場（上野原宿、鶴川宿、野田尻宿、犬目宿）

近年、健康ブームなどの影響によりウォーキングやトレッキング等をはじめの人が増加し、イベントも多数開催されています。伝統的な旧街道の雰囲気味わいながらのウォーキングも人気のあるルートの一つとなっています。本市には、かつて市の大動脈であった旧甲州街道が残り、市内を東西に横断しています。現在も当時を忍ばせる建物や塚などが存在していますが、旧甲州街道は平行する中央自動車道建設に伴い寸断された箇所が多く、分岐点に道標がないことから一体的な整備が必要です。旧宿場（上野原宿、鶴川宿、野田尻宿、犬目宿）を核とし、街道沿いの街並み景観形成を進めます。

<対応策例>

- 旧街道の保存・整備
- 旧宿場を核にした街道沿いの街並み景観形成
- 街道沿いのサイン等の設置
- ホームページ等を活用した情報発信



• 野田尻宿の景観

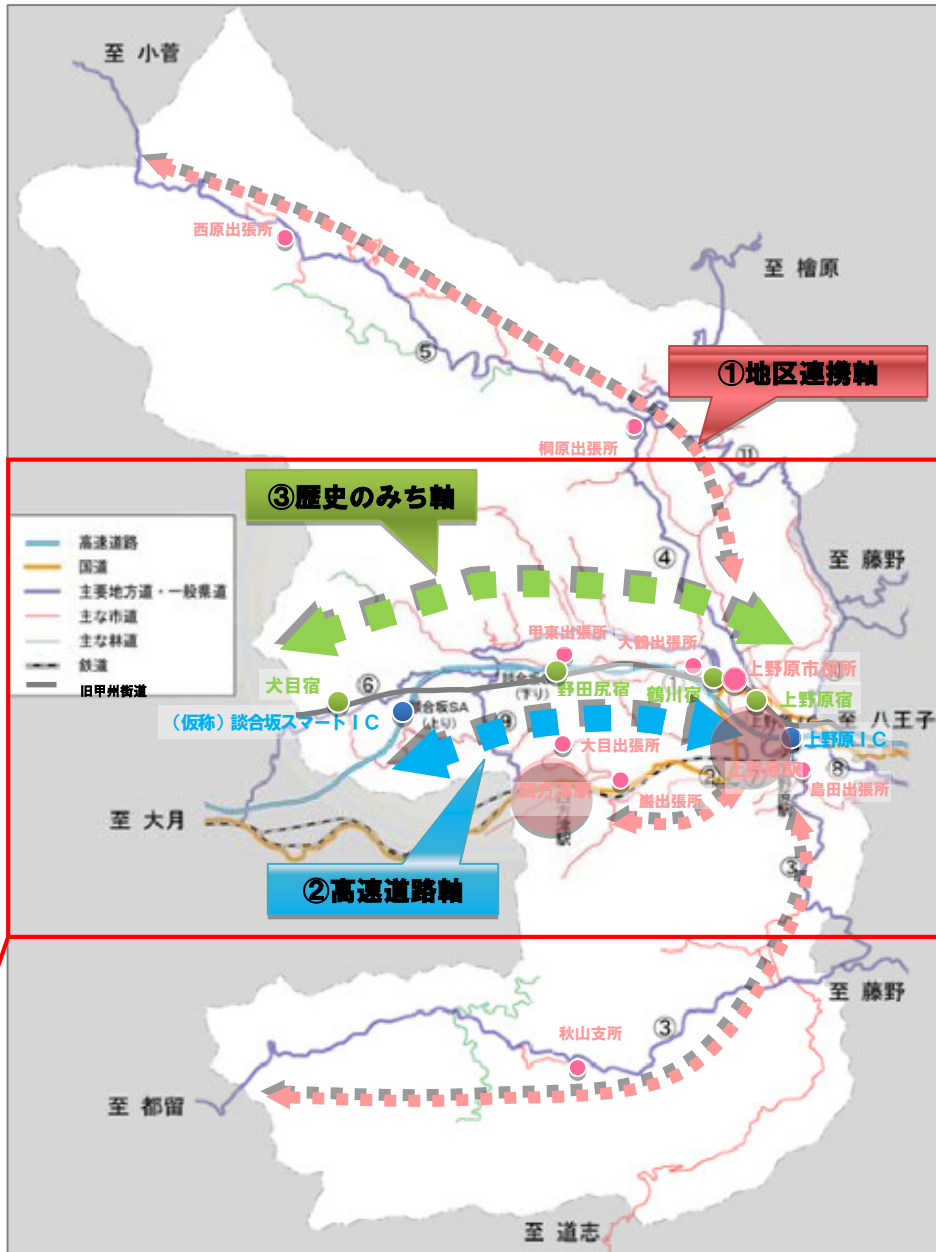


• 恋塚一里塚



• 旧甲州街道の石畳

◆ 地域の連携軸（イメージ）





• ①地区連携軸の例：新天神トンネルの開通



• ②高速道路軸の例：(仮称) 談合坂スマートIC建設予定地



• ③歴史のみち軸の例：鶴川宿の観光案内板